

共同研究「日本宗教史像の再構築」の説明

大 谷 栄 一・吉 永 進 一・永 岡 崇・菊 地 暁

本号は、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」の特集号である。2014年度に本共同研究で実施した3つのワークショップ「帝国日本と民間信仰」「近代日本宗教史における〈皇道〉のポリテクス」「神の声を聴く：神託比較研究」の記録からなる。

特集に先立ち、この共同研究の成り立ちと目的、研究の意義と期待される成果、班員、活動状況を説明しておきたい。

1. 本共同研究の成り立ちと目的

共同研究「日本宗教史像の再構築」は、2014年4月に3年間の計画でスタートした。そもそも、この共同研究が発足した経緯を振り返ると、2013年秋、大谷（佛教大学）と吉永進一（舞鶴工業高等専門学校）が中心になり、「日本宗教史像の再構築」をテーマとして、平成26年度（2014年度）京都大学人文科学研究所共同利用・共同研究拠点 共同研究プロジェクトに申請することにした。審査の結果、採択となり、共同研究が立ち上がった。

研究の目的は、以下の通りである。

「近年、日本宗教史の研究は新たなステージを迎えている。近代仏教史を例に挙げれば、従来の研究が更新されつつある。長年、この分野を牽引してきた吉田久一、柏原祐泉、池田英俊らの研究に多大な実証的成果を認める一方、宗教史的事実の位置付けに一定の「偏向」があることも徐々に明らかとなってきた。たとえば、神智学協会会長・オルコットの来日（明治22年）という出来事の宗教史的意義が検討されることはまれだった。しかし実際には、来日したオルコットは各地で大歓迎され、一種の仏教リバイバルを引き起こした。ここに、「神智学」のオカルティズムに対する近代仏教研究側の予見があったことは認めざるを得ない。すなわち、近代主義的な「宗教」観に基づく事例の取捨選択が強固に

作用していたのである。/こうした既存の宗教史研究の「近代主義的」なバイアスを解きほぐし、それによって不可視化されていた事象に光を当て、新たな日本宗教史像を構築していくことが、本研究の目的である。」

いうまでもなく、日本宗教史研究は第二次世界大戦前から厚い研究の蓄積があり、戦後も膨大な成果が産出されてきた。たとえば、笠原一男編『日本宗教史研究入門——戦後の成果と課題』（評論社、1971年）では、「戦後の日本宗教史の研究成果」が宗教史、古代、中世、近世、近代・現代のカテゴリーの下に整理され、各分野の研究者の業績が詳細に紹介されている。

また、この『日本宗教史研究入門』を引き継ぐ形で1978年に『日本宗教史研究年報』が発刊される。その第7号に、大濱徹也、圭室文雄、宮田登による「《座談会》いま、日本宗教史研究を考える」が掲載されている。その中で、宮田登はこう述べている。

「宗教史研究というと、教団史という狭い枠にとらわれたものがどうしても多かった。戦後、笠原先生たちの「日本宗教史研究会」が生まれ、日本宗教史を単なる教団史のみに限るのではなく、せまい枠から解放しようとした。……ですから日本宗教史研究会には、学際的領域という大袈裟かも知れませんが、宗教社会学・民俗学などの関連諸領域の研究者も、集まってきたわけです。」（5～6頁）

日本宗教史研究会は笠原一男らによって結成された研究会で、『日本宗教史研究入門』も『日本宗教史研究年報』も、この研究会の成果がベースになっていた（cf. 日本宗教史懇話会編『日本宗教史研究の軌跡と展望』岩田書院、2014年）。

現在、こうした先達の試みを継承しつつ、日本宗教史研究をさらに進展させていくことが求められている。この共同研究でも「教団史という狭い枠」ととらわれず、「学際的」に研究を行うことを意図した。さらには、従来の宗教史研究が前提としてきた認識枠組や研究視点（それを象徴的に「近代主義的」なバイアスと呼んでいる）をも問い直すことで、新たな日本宗教史像の構築に向けた共同研究を実施することになった。

2. 本研究の意義と期待される成果

従来提出されてきた日本宗教史像は、近代主義的な「宗教」概念、「一国史観」に自足した歴史叙述、「宗派」により分断された研究活動等々、いくつかの制約を免れなかった。こうした制約を真正面から見据え、その制約がもたらした限界を正確に認識し、その限界を克服する

新たな方途を模索することが求められている。そのために取り組むべき第一の課題は、既存の日本宗教史像を支えてきた諸研究の時代的制約を徹底的にあぶり出す作業である。いわゆる学説史を一步進め、学問の思想史ないし学問の社会史というべきアプローチである。

一方、日本宗教史について宗教学、歴史学、社会学、民俗学など、さまざまな実証的研究を行っている側から、既存の宗教史像の視角や欠落を指摘していく作業も不可欠である。

こうした日本宗教史像の思想史的・社会史的再検討と実証的宗教史研究とを架橋し、その生産的対話の場を構築することが、本研究の意義である。

では、どのような成果を期待できるだろうか。

本研究は、上記のような日本宗教史像の思想史的・社会史的再検討、あるいは、さまざまなフィールドで実証的に宗教史像の更新を試みてきた研究者たちの力を統合することにより、日本宗教史像を再構築していく試みである。具体的には、日本宗教史研究の有力な研究対象である「仏教」、その周辺に派生する「新宗教」、そうした宗教実践に基層的に作用する「民間信仰」といった対象を中心に、既存の研究史の批判的再検討と、現在の実証水準からの問題提起を進める。その上で、近代日本の異形性を過剰に投影された「国家神道」、近代主義的な宗教性を過剰に期待された「キリスト教」をめぐる最前線の知見との再統合を試みる予定である。

こうした作業を分野横断的、かつ、トランスナショナルな視点から進めることによって、「宗派史」的分断や「一国史」的分断を克服し、日本宗教史像を総合的・包括的に展望する視野を構築することが、本研究に期待される成果である。

3. 本共同研究の班員

本共同研究では大谷、吉永、永岡、菊地が世話人を務め、班員のサポートを得ながら、毎回、研究会の企画を考えている。

2015年11月時点で、班員は以下の34名である（五十音順、敬称略）。

石井美保（京都大学人文科学研究所）、一色哲（帝京科学大学）、板井正齊（皇學館大学）、岩田真美（龍谷大学）、上野大輔（慶應義塾大学）、大谷栄一（佛教大学）、碧海寿広（龍谷大学アジア仏教文化研究センター）、岡田正彦（天理大学）、川瀬貴也（京都府立大学）、菊地暁（京都大学人文科学研究所）、金泰勲（立命館大学）、栗田英彦（日本学術振興会）、G. Clinton Godart（北海道大学）、近藤俊太郎（本願寺史料研究所）、佐々充昭（立命館大学）、佐藤文子（本願寺史料研究所）、角南聡一郎（元興寺文化財研究所）、瀬戸口明久（京都大学人文科学研究所）、田中悟（神戸大学）、田中雅一（京都大学人文科学研究所）、塚田穂高（國學院大學研究開発推進機構）、對馬路人（関西学院大学）、土居浩（ものづくり大学）、永岡崇（日本学術振興会）、西嶋一泰（立命館大学大学院）、西村明（東

京大学), 長谷川雄高 (大谷大学真宗総合研究所), 林淳 (愛知学院大学), 福島栄寿 (大谷大学), 藤原辰史 (京都大学人文科学研究所), 松金直美 (真宗大谷派教学研究所), 水内勇太 (同志社大学大学院), 吉永進一 (舞鶴高専), 渡部圭一 (琵琶湖博物館)。

4. 活 動 状 況

2014 年 4 月 26 日に第 1 回研究会を開催してから, これまでに以下のような研究会を実施した。

2014 年		
4 月 26 日	第 1 回研究会	共同研究班「日本宗教史像の再構築」発足にあたって
6 月 28 日	第 2 回研究会	ワークショップ「神の声を聞く: カオダイ教, 道院, 大本教の神託比較研究」
7 月 27 日	第 3 回研究会	ワークショップ「近代日本宗教史における〈皇道〉のポリティクス」
10 月 5 日	第 4 回研究会	ワークショップ「帝国日本と民間信仰」
11 月 16 日	第 5 回研究会	ワークショップ「近世仏教像の新たな構築に向けて — 真宗論からのアプローチ —」
12 月 12~14 日	特別企画 (第 6 回研究会)	国際ワークショップ “Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities” (龍谷大学アジア仏教文化研究センター, 国立民族学博物館・現代インド地域研究部門, 近角常観研究会 (科研番号 24320018), 近代宗教アーカイブ研究会 (科研番号 23320022) との共催, (公財) 仏教伝道協会, アメリカ宗教学会共同国際研究資金の後援)
2015 年		
2 月 27 日	特別講演会	特別講演会「秘教的コネクションと近代世界」(神智学研究会との共催)
3 月 15 日	第 7 回研究会	ワークショップ「宮座をめぐる冒険 肥後和男『宮座の研究』とその周辺」
3 月 29 日	第 8 回研究会	ワークショップ「宗教のつなぎ方: 大本の宗教提携と平和運動をめぐる」
4 月 25 日	第 9 回研究会	共同研究「近代宗教のアーカイヴ構築のための基礎研究」の成果と課題
7 月 25 日	第 10 回研究会	ワークショップ「近代日本のメディアと宗教」
9 月 12 日	第 11 回研究会	ワークショップ「身体と政治: 近代日本の霊的な心身技法と国家論」
10 月 17 日	第 12 回研究会	ワークショップ「聖なるものとその複製」
10 月 24 日	第 13 回研究会	ワークショップ「寺社組織の近代化を問う」
12 月 12~13 日	特別企画 (第 14 回研究会)	国際ワークショップ “Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki”

今号では, 第 2 回研究会, 第 3 回研究会, 第 4 回研究会の記録を掲載するが, 掲載に際しては発表者に報告原稿をもとに新たに原稿の執筆を依頼し, コメンテーターにはコメントの原稿化をお願いした。ご寄稿いただいたみなさまに感謝申し上げたい。

なお、本共同研究の詳細や活動記録については、本共同研究のホームページ (http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/religious_histories/) をご覧いただければと思う。

本特集が「日本宗教史像の再構築」に向けた足がかりになればと思う。読者諸賢のご意見・ご叱正を待ちたい。